

国立82大学の “入学者選抜の転換”！

8割超が“多面的・総合的評価”を第3期「中期目標・計画」に！

旺文社 教育情報センター 27年12月

16年度に法人化された国立大は、28年度から6年間の第3期中期目標期間を迎える。

進展するグローバル社会と知識基盤社会にあって、国立大の使命・役割を認識し、今後6年間の活動の主軸となる「中期目標・中期計画」の“素案”が各国立大から提示され、27年10月下旬に文科省から公表された。入学者選抜に関しては、「学力の3要素」を踏まえた、志願者の“多面的・総合的”な評価への転換が8割超の大学で目標、計画されている。

ここでは、国立82大学が「中期目標・計画」の素案に掲げている項目から、入学者選抜に関する目標及び具体的な計画について、その内容を紹介するとともに、第3期中期目標期間における入学者選抜の方向性を探った。



<国立大学法人の中期目標・計画の策定>

○ 組織・業務全般の見直し

国立大学法人は、各大学法人(以下、国立大)の基本理念や長期的な目標を実現するために、当面の6年間を一区切りとして達成すべき目標を「中期目標」として策定する。

また、中期目標の内容を達成するための具体的な計画を「中期計画」として立てる。

文科省は、各国立大が第3期「中期目標・計画」を策定するに当たり、組織や業務全般の見直しに関する“視点”を26年9月に提示し、更に27年6月上旬、「国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて」を各国立大に「通知」した。

この「通知」は、第3期中期目標期間(28年度～33年度)における組織や業務全般の見直しについて、教員養成系・人文社会科学系の組織の“廃止”や社会的要請の高い分野への“転換”等のほか、教育研究等の見直しの一つとして“入学者選抜の転換”も求めている。

○ 第3期における“入学者選抜の転換”：文科省「通知」

各国立大は、「通知」された次のような入学者選抜に係る見直し内容等に沿って検討し、その結果を中期目標・計画や年度計画に具体的に盛り込むなど、新たな“転換”が求められている。

ただ、見直しの具体的な計画(措置)等については、各国立大の自主的・自立的な検討に基づくものであり、各大学の状況等に応じて内容は異なる。

● 第3期中期目標期間における“入学者選抜の転換”：文科省「通知」

入学者選抜は、求める学生像だけでなく、各大学の強み・特色、社会的役割を踏まえつつ、大学教育を通じてどのような力を発展・向上させるのかを「入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」で明確化するとともに、「知識・技能」／「思考力・判断力・表現力」／「主体性・多様性・協働性」を適切に評価する多面的・総合的な選抜に転換していくよう努めること。

（「国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて」＜文科省「通知」：27年6月＞より）



第3期「中期目標・計画」(素案)にみる国立82大学の入学者選抜の転換

第3期「中期目標・計画」(素案)における「大学の教育研究等の質の向上」に盛り込まれた、国立82大学(4大学院大学を除く)の“入学者選抜の転換”に関する「目標」及び「計画」(目標達成のための措置)は、次のようなものである(文科省27年10月下旬公表)。

ただ、次掲の「目標」等は27年6月の“素案”段階(一部、27年7月以降の追加・修正等含む)のもので、今後、文科省の「高大接続システム改革会議」の『最終報告』や国大協の入試改革に向けた『提言』などによって、内容の変更や追加等もあり得る。

なお、ここでは学部入試に関するものを取り上げ、大学院入試は割愛。各大学の記載で、新たな入学者選抜への取組など、注目すべき文言等は当方で太字・下線を付記した。

北海道大

- 【目標】：● 広く世界に優秀な人材を求め、本学の教育を受けるにふさわしい学力・能力を備えた人材を多様な選抜制度により受け入れる。
- 【計画】：● 第2期中期目標期間に導入した、入学後に所属する学部を決める「総合入試」制度を検証する。また、ボーダレスなグローバル社会をリードする意欲と資質を持った人材を人物本位で選抜するため、30年度入試から国際バカロレア等を用いた「国際総合入試」を開始する。

北海道教育大

- 【目標】：● 本学の目的と使命に基づく教育をより高いレベルで実践するため、入学者選抜では、大学入試センター試験に加えて、小論文、面接、実技、調査書等に基づき、総合的に評価してきた。26年度に開設した国際地域学科及び芸術・スポーツ文化学科では、総合問題、小論文、面接、実技、調査書等に基づき、総合的に評価することとした。27年度入試から、教員養成課程釧路校が実施している、へき地・小規模校教育に関心と意欲を持つ者を求める推薦入試(地域指定)において、これまでの道東地区に限定していた募集対象を日高・宗谷・オホーツク地区まで拡大し、より地域に根ざした教員の養成を図っている。
- さらに、28年度入試から、教員養成課程においては教科の基礎的・基本的な知識・技能などを活用して、思考力、判断力、表現力を問う教科試験を導入、実施することとした。第3期では、高大接続を実現するため、新たに入試戦略室(仮)を設置し、これらの入学者選抜方法を検証し、地域の学校教育を担う人材や地域の成長に貢献する人材に相応しい能力、意欲、適性を備えた学生を確保できるよう、アドミッション・ポリシーに基づくより適切な入学者選抜方法へ改善する。
- 【計画】：● 高大接続を実現する新しい入学者選抜方法へ見直すため、新たに入試戦略室(仮)を設置し、入試アドミニストレーターを配置し、入学者として相応しい能力・意欲・適性について分析・研究するとともに、研究成果を入試制度改革に取り込む。
- 教員養成課程においては、28年度入学者選抜方法の変更による入学者の学力等の検証を行い、質の高い教員養成に向けた能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定する入学者選抜方法へ改善する。
 - 学科においては、学科完成の29年度までの入学者の学力等の検証を行い、国際的視野を持った地域で活躍できる人材(国際地域学科)及び地域再生の核となる人材(芸術・スポーツ文化学科)の養成に向けた能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定する入学者選抜方法へ改善する。

室蘭工業大

- 【目標】：● 学士課程では、科学技術に夢を抱き、世界舞台を目指す、学習に意欲をもった多様な学生を受け入れる。
- 【計画】：● 課題解決能力、主体性・倫理観などを育む学士課程での修学に必要な基礎学力・教養と、修学の基盤となる思考力・主体性・表現力を有する学生を受け入れるために、アドミッション・ポリシーを再策定するとともに、入学者選抜方法改善につながる情報・データを絶えず収集し分析する。これにより、学力の三要素を多面的・総合的に評価するアドミッション・オフィス入試をはじめとする新しい入学者選抜方法を31年度までに構築する。

小樽商科大

- 【目標】：● アドミッション・ポリシーに基づき、大学入学希望者の多様な能力を多面的に評価する個別選抜を実施する。
- 【計画】：● アドミッション・ポリシーに基づき、学生の追跡調査を通じた入試選抜方法の検証を行うとともに、高大接続教育の成果及び新たな教育課程の導入を踏まえた入学者選抜方法について30年度までに公表し、その検証・改善を通じて多面的・総合的な選抜を実施する。

帯広畜産大

【目標】：● 大学入学希望者選抜方法を改善するため、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定する入学希望者選抜方法を導入する。

【計画】：● アドミッション・ポリシーで求める学生を適切に選抜するため、多面的評価を重視した入学希望者選抜方法を検討し、30 年度に大学入試センター試験を活用して新たな入学希望者選抜方法を導入するとともに、当該入学希望者選抜方法の評価・改善を実施する。

旭川医科大

【目標】：① 変化する社会情勢に即応した入学希望者選抜を実施するため、入学希望者に求める能力を明確にし、それらを公正に評価・判定する選抜方法に変更する。

② 地域医療に対する強い意欲・使命感を持った入学希望者を選抜するため、特に北海道内の高等学校との高大連携活動を推進する。

【計画】：① 入学希望者に求める能力・意欲・適性等がより明確になるようにアドミッション・ポリシーを見直す。また、33 年度からの新制度入試で導入される予定の「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）の試行テスト（30 年度実施予定）の内容を見据えつつ、学力の 3 要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性）」を多面的・総合的に評価できるように多様な評価方法を組み合わせた入学希望者選抜に転換する。

② 北海道内の高等学校・医療機関と連携して、高校生対象の医療体験実習・実習報告会の実施等、高大病連携活動を展開する。

北見工業大

【目標】：● アドミッション・ポリシーに基づき、大学入学希望者の多様な能力を多面的に評価する選抜へ抜本的に改革する。

【計画】：● 大学入学希望者学力評価テスト（仮称）を活用し、本学アドミッション・ポリシーに基づき、多様な能力を多面的に評価する新たな入学希望者選抜方法を 32 年度までに導入する。

● 組織改革と併せて新しい学科構成における理念・学習教育目標を基礎とした本学の入学希望者選抜におけるアドミッション・ポリシーを教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と一体的なものとして再検討し、28 年度までに公表する。

弘前大

【目標】：● 入学希望者選抜の多様化と評価尺度の多元化により、意欲・能力ある学生を選抜する。

【計画】：● 入学希望者選抜方法に関する調査研究・企画立案を担当する組織を新設する。入学希望者選抜改革のための全学的な委員会を設置し、高大接続の観点から AO（アドミッション・オフィス）入試の拡充など学生の多様な能力を評価する個別選抜の改革案を策定、実施する。

岩手大

【目標】：● 高大連携や大学教育の質的転換という観点も踏まえ、大学の入り口段階で求められる能力を明確にし、これを多面的・総合的に評価する選抜方法を検討して実施する。

【計画】：● 高等学校教育や大学教育の質的転換を踏まえ、本学が求める入学希望者の能力及びその判断基準の方法について検討を進め、その結果を踏まえてアドミッション・ポリシーを明確化する。また、アドミッション・オフィスの設置検討も含む入学希望者選抜実施体制を整備していく。これらのことにより、アドミッション・ポリシーに適合する質の高い入学希望者の確保を安定的に行う入学希望者受入れを実施する。

● 32 年度から予定される「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）の主旨を踏まえ、学部共通試験の導入等学力試験のあり方についての検討を進める。また、志願者の大学学修適応力を多面的・総合的に評価する総合問題や志望分野への適性試験の導入、地域性や地域貢献への意欲等を考慮する入学試験のあり方についても検討し、実施する。

東北大

【目標】：● アドミッション・ポリシーに適合する、優秀で意欲的な学生が国内外から受験する入試戦略を展開し、より多面的・総合的な選抜を実施する。

【計画】：

＜学生募集力の向上＞

● 東北大学進学への募集活動を強化するため、教育内容・進路状況・研究成果等の情報提供を促進し、説明会・オープンキャンパス・移動講座等を開催するとともに、優秀な外国人留学生を受け入れるため、英語ウェブサイトによる発信力の強化、海外拠点を利活用したリクルート活動等を展開する。

＜アドミッション・ポリシーに適合する入学希望者選抜方法の改善＞

● 多様な学生の確保を目指したアドミッション・ポリシーに適合する学生を確保するため、30%を目指した AO 入試による入学定員の拡大、国際バカロレア入試や日本人学生を対象に英語で学習するためのグローバル入試等の導入、TOEFL 等の外部試験の入試への活用をはじめとする入学希望者選抜方法の継続的な点検・改善を進めるほか、国際学士コースについては、海外拠点の利用を含む海外現地入試を引き続き行うとともに、海外における教育課程を踏まえた柔軟な入学希望者選抜方法の改善を継続的に進める。

宮城教育大

【目標】：● アドミッション・ポリシーに基づき、知識偏重の入学希望者選抜から脱却し、本学の求める「人間力」を重視した、知識・能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定するシステムを策定し、高大接続事業の成果を活用し、新方式への転換を第 3 期中期目標期間中に示す。

【計画】：● アドミッション・ポリシーに適う入学希望者を迎えるため、アドミッション・オフィスを設置し、IR に基づく戦略的な入試方法改善策（推薦枠の拡大等）を策定し、より多面的・総合的な選抜に転換することによって、教員への意欲の高い受験生を確保する。

● 第 2 期中期目標期間では、入学の段階で教師を志す意思を明確にしている学生が 7 割弱であったことから、入学希望者の追跡データを集約・検証し、第 3 期中期目標期間中に 8 割まで上げる。

宮城県教育委員会と本学が実施する高大接続事業「教師を志す高校生支援事業」を継続的に実施し、高校生に教員養成大学のミッションの理解を進めるとともに、高校におけるキャリア教育に協力することで教員になるという目的意識を持った入学希望者を増加させる。

秋田大

【目標】：● 本学の理念・目標や各学部・研究科のアドミッション・ポリシー（入学希望者受入の方針）に沿った優れた人材が国内外から多く集まるように、入学希望者選抜方法を改善・充実させる。

【計画】：● 32 年度の入試改革に向けた体制整備として、高大接続教育部門（仮称）、入学希望者選抜方法等研究開発部門（仮称）及び広報推進部門（仮称）からなる秋田大学高大接続センター（仮称）の 29 年度中の設置に向けた準備を開始し、設置準備委員会の下で AO（アドミッション・オフィス）入試や推薦入試の実施状況・実施結果の検証を行うとともに、アドミッション・ポリシーに基づいた能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定する入学希望者選抜システムを開発し、30 年度にはその概要を公表し、32 年度入試から導入する。

山形大

【目標】：● 入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学力・意欲・適性等を多面的に評価し、学生の可能性を総合的に判定する入学者選抜を実施する。

【計画】：● 一般入試の志願者の能力・適正等を多面的・総合的に評価するため、面接やTOEIC等の外部検定試験等の利用などを28年度中に検討し、32年度から導入予定の新たな入学者選抜に対応した選抜方法を明確にするなどとして、入試改革の動向に迅速に対応する。

- 多様な学力・意欲・適性等を備えた学生を確保するため、国際バカロレア（国際バカロレア機構（本部ジュネーブ）が提供する国際的な教育プログラム）資格取得者を対象とした入試の実施、AO入試（Admissions Office の略。出願者自身の人物像を大学の入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）と照らし合わせて合否を決める入試方法）、並びに入試における地域枠の拡大など28年度中に検討し、実施可能なものから順次、導入する。
- 入学者選抜の改善を図るため、第2期中期目標・中期計画期間に強化したIR機能を有する「総合的学生情報データ分析システム」を活用して入学者の選抜及び評価手法に係る追跡調査、入学後の成績調査、卒業者の進路調査などを定期的に実施し、客観的なデータを用いた入学者選抜の評価を行う。

福島大

【目標】：● 地域社会の諸課題の解決に創造的に取り組める人材を得るために、既存の入試方法を改善するとともに、社会のニーズを踏まえた入試広報を戦略的に行う。

【計画】：● 地域の課題解決という本学のビジョンに沿った人材を獲得するため、現行の入試方法を点検し、人間性や社会性、地域への課題意識、実践力や探求力などの多様な能力を測るための入試方法の改善を行う。

- 18歳人口の減少などに対応するため、全学一丸となって東日本大震災と原発事故に取り組む本学の強みを生かし、学生の母校訪問プロジェクトや大学執行部の高校訪問などを行い、高校生や社会人等のニーズを踏まえた入試広報を展開する。

茨城大

【目標】：

＜入試制度の改革と新入試の実施＞

- アドミッション・ポリシーに基づき、公正な入学者選抜を着実に実施するとともに、知識や思考力、主体性等の多様な能力を重視し、多面的な評価を行う入学者選抜方法に転換する。

【計画】：

＜アドミッション・ポリシーに基づいた入学者選抜試験の着実な実施＞

- アドミッション・ポリシーに基づき、入学者選抜を毎年度着実に実施する。また、アドミッション・ポリシーを含め、本学の教育等に対する関心や理解を高め、志願者数の確保につなげる。

そのため、全学及び各学部等のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえ定めるアドミッション・ポリシーを広く周知し、入学者選抜の基準を明確化するとともに、アドミッション・ポリシーに即した人材を選抜できるよう、入試方法改善を実施する。公正で透明性の高い入学者選抜を毎年度着実に実施するため、入学者選抜試験に関わる教職員の体制を整備するとともに、高い意識をもって業務にあたることができるよう指導・監督を徹底する。

さらに、様々な広報ツールやオープンキャンパス、学校への説明会などを通じた入試広報活動を実施する。

＜新入学者選抜に向けた取組＞

- 32年度から導入される予定の「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」を踏まえ、円滑に入学者選抜が実施できるようにする。

そのため、毎年度実施してきている推薦入試や、一般入試での新たな選抜方法の導入等を行い、多面的・総合的な選抜方法について、実現可能性等も含めた検証を行いながら、新テストに対応する入試方法を開発する。

また、高大接続協議会（仮称）を設置し、県内の高等学校関係者の意見を適切に反映させ、高大接続教育の在り方を含め検討を行う。これらの業務を担当するため、28年度から、新たに入試担当の副学長を設置し、その下に、現行の入学センターの体制を強化し、複数のアドミッションオフィサーと事務体制を持つアドミッション・オフィス（仮称）を設置し、取組を強化する。

筑波大

【目標】：● 世界から多様かつ優秀な学生の受入れを実現する入学者選抜を実施する。

【計画】：

＜世界から多様かつ優秀な学生を受け入れる入学者選抜に関する具体的方策＞

- 教育システムと体制の再構築に従い、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを定めた「筑波スタンダード」を内容がより明確となるよう洗練し、これらに基づくアドミッション・ポリシーに沿って、世界から優秀な学生を受入れるための国際バカロレア（IB）スコアの一層の活用などグローバル入学者選抜システムを確立する。＜KPI：33年度までに入学者選抜試験を経て入学する外国入学生を学群は10%、大学院は20%まで拡大＞

- 学士課程においては、入学希望者（外国人高校生や社会人を含む）の真の能力を最大限に引き出す教育システムに対応できる人文社会系、自然科学系などの大括り入試を実施する。＜KPI：32年度までに大括り入学者選抜を実施＞

筑波技術大

【目標】：● 本学の特性を踏まえたアドミッション・ポリシーに基づき、知識・意欲・コミュニケーション能力・適性など、総合的な評価を基に複数の戦略的な入試による多様な学生の受入れを推進する。入試に際しては、受験生の障害特性に応じた試験方法の修正を行う。入試内容については、高大接続、大学入学者選抜の一体的改革への対応も踏まえ、社会や志願者のニーズに対応したものに整備する。

【計画】：

＜高大接続、大学入学者選抜の一体的改革への対応＞

- 32年の入試改革に合わせて入試制度を再構築する。全ての入試に面接および学力検査（あるいは小論文）を実施し、「意欲」「人物」「知識・理解力・思考力・表現力」「適性」等を適切に評価する多面的・総合的な選抜を行う。

また、大学入学希望者学力評価テスト（仮称）、高等学校基礎学力テスト（仮称）導入およびそのプレテストの実施状況を鑑み、従来の個別入試、推薦入試、AO入試、社会人入試の入学者選抜方法・内容を見直す。さらに、上記の2つの新テストの導入にあたり特別支援学校と連携して聴覚障害、視覚障害学生への合理的配慮等の意見等を表す。

宇都宮大

【目標】：● 大学教育を通じて身に付けさせる資質・能力と求める学生像を明確にしたアドミッション・ポリシーを策定するとともに、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定し、意欲的で多様な学生を受け入れるための入学者選抜方法を導入し、その効果を検証する。

【計画】：● 高校教育の質的転換を踏まえ、学生に身に付けさせるべき資質・能力をディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーと関連付けて明確化し、求める入学者像とともにより具体的なアドミッション・ポリシーとして確立する。

- 新しい学力（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」）や意欲・適性を多面的・総合的に評価し判定する入学者選抜の方法を検討し、実施する。
- グローバルサイエンスキャンパス事業を中心とした高大連携をさらに強化し、優秀な高校生を確保するために新たに特別選抜制度を導入する。また、新しく導入する AO 入試（地域デザイン科学部）、外国人生徒対象の入試（国際学部）、栃木県小学校教員を志す者を対象とする推薦入試 B（教育学部）の成果を検証し、適切な募集人員と入試方法を継続的に見直すとともに、アドミッション・ポリシーに適合する質の高い入学者確保の方策について検討を進める。

群馬大

【目標】：● 高校教育のプロセスに対応した柔軟な入学者選抜にも配慮し、推薦入試や AO 入試など、多様な選抜方法を取り入れて、強い勉学意欲と豊かな倫理観を持つとともに、基礎的学力を備えた学生を選抜する。

社会での実務経験を考慮に入れ、かつ柔軟な修学計画の策定を基にした社会人の入学者選抜、日本語教育を入試前段階の予備教育として組み合わせた留学生対象の入学者選抜など、多様性を取り入れた入学者選抜方法を開発・実施する。

【計画】：● 本学の教育改革、国の施策、社会からの要望、並びに 18 歳人口の減少などを踏まえ、また、国の「高大接続改革実行プラン」を踏まえ、入学者選抜の結果を年度ごとに調査分析し、入学者選抜方法に反映させる。

特に、「学力の 3 要素」を持った資質の高い学生を評価する入学者選抜方法について、既存の選抜方法の見直しを図るとともに、新しい形態のテストへの移行に向けた検討を行う。

- 入学者選抜方法の改善に当たっては、各学部のアドミッション・ポリシーを再検討するとともに、求める能力と評価基準を明確に示し、オープンキャンパス等の行事、高校との意見交換や各種メディアを活用して、効果的な周知を行う。
- 地域貢献の観点及び 18 歳人口の減少を見据え募集単位や募集人員を検討し、説明会の開催、模擬授業の開催などを通して、特に県内の高校との連携を強め、広く広報活動を行うことにより、県内からの志願率 40%（全学平均）、入学者率 50%（全学平均）を維持する。

埼玉大

【目標】：● 学士課程の入試では、アドミッション・ポリシーに基づき、知識偏重の入学者選抜から脱却し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を適切に評価する多面的・総合的な選抜に転換する。

【計画】：● アドミッション・ポリシーを見直し明確化するとともに、「確かな学力」を育む高等学校教育と本学の教育を適切に接続させるため、明確化したアドミッション・ポリシーに基づき、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・総合的に評価・判定する入学者選抜方法を導入する。

- 入学者の学修状況等に関する追跡調査を実施し、アドミッション・ポリシーに沿った人材像となっていたか、入試選抜の適切性を検証し、その結果を選抜方法等にフィードバックする。

千葉大

【目標】：● 入学に際して習得しておくべき内容・水準等を含む入学者受入方針を継続的に見直すとともに、関係者に対して明確に示し、これに相応しい入学者選抜方法に改善することにより、意欲的で多様な人材を受け入れる。

【計画】：● 各学部、研究科（学府）は、その教育目標に基づき入学者受入方針を継続的に見直し、入学後の教育課程と入学者選抜の評価方法との関係性や求める能力の評価方法を明確化する。

- 入試実施体制の再編成とアドミッション・オフィスの設置により、新しい入試システムを構築し、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定するための多様な入試選抜方法を採用する。

また、英語の外部試験を入学者選抜に利用する方法を新たに採用する。これまで先進科学プログラムで実施してきた総合評価に基づく選抜方式を礎にこれを全学に展開する。

- 高等学校の関係者等の意見を踏まえ、入試広報活動を改善するとともに、高等学校等のカリキュラム開発支援や高大連携企画事業を通じて意欲的で多様な志願者を確保する。
- 学生の多様なニーズに対応し、グローバル人材育成を進めるため、「飛び入学」制度の充実、秋季入学制度の整備・改善、AO 入試を推進するとともに、海外での入試及び国際バカロレアを利用した入試を実施する。特に、理工系や国際教養学部において、高大連携プログラムを活用した接続推薦制度を実施することにより高大連携を推進し、連携する高等学校、SSH 校や SGH 校から優秀な学生を獲得する。

東京大

【目標】：① 東京大学のアドミッション・ポリシーに基づく多様な入学試験を実施する。

② 入学者選抜の多様化に対応するための体制を整備する。

【計画】：①-1 学部一般入試においては、受験者の機会均等及び選考の公正さを尊重する観点から、アドミッション・ポリシーに基づく記述解答式の学力試験による入学者選抜をさらに改善しつつ継続する一方、意欲や適性等を含めた志願者の能力を多面的に判断する推薦入試を着実に実施する。

特に、推薦入試による入学者については、入学後の学習や活動の状況を調査し、その情報を蓄積することで、次期の入学者選抜の在り方の検討に活用する。

①-2 外国学校卒業学生特別選考や学部英語コース特別選考においては、国ごとの教育制度の相違を考慮した多様な評価尺度を用いた入学者選抜を行い、海外の有力大学と競いながら引き続き優秀な学生を獲得することを目指す。

②-1 入学者選抜方式の多様化に対応するための全学組織としてアドミッション・センター(AC)を設置し、学部入試における入学者選抜を統括する。具体的には、推薦入試等の実施に係る業務を行うとともに、一般入試や推薦入試等による入学者の学修や活動状況に関する追跡調査などを着実に実施し、入学者選抜方式の改善に資する取組を行う。

また、国際化推進学部入試の拡充に伴って、国際広報を含めた国際化推進学部入試担当室の機能を強化する。

東京医科歯科大

【目標】：● アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜を行い、全人的医療人に相応しい人材やグローバルな人材を選抜するため、能力・意欲・適性に対する多面的評価・判定法を確立する。

【計画】：● 国際バカロレアディプロマ資格者入学枠の導入の検討を進めるとともに、学士、修士、博士課程入学試験において TOEFL などの民間の英語資格・検定試験を導入する。アドミッション・ポリシーに相応しい学生を早期に獲得するための推薦入試を全学部において実施する。

また、アドミッション・オフィスを設置するなどアドミッション部門を強化し、入学者選抜制度等に関わる研究開発や教員研修、入試広報等を積極的に推進する。

- 人材育成および学際領域、複合領域の研究教育の更なる推進を目的として本学、東京外国語大学、東京工業大学、一橋大学により構成される四大学連合を活用した大学個別試験、本学および四大学連合内での卒業後の優先的な学士編入学制度、医歯学基礎研究者養成のための学士コースの検討を開始する。

東京外国語大

- 【目標】：● アドミッション・ポリシーに基づき、本学が養成する人材像と本学の教育課程にふさわしい学生を国内外問わず獲得するため、能力、意欲、適性を総合的・多面的に評価できる多様な入学者選抜方法を導入する。
- また、主体性と創造性をもつ受験生を生み出すために、高大連携推進事業を拡充する。
- 【計画】：● 学士課程の入試において、各種外部試験や国際バカロレアの活用、推薦入試や Global Japan Office を活用した入学者選抜を行う。
- また、知識のみならず、思考力・判断力・表現力を重視し、主体性・多様性・協働力を適切に評価できる多面的・総合的な入試を導入し、全体として入試の多様化を図る。
- 高校教育と大学教育との円滑な接続を可能とし、主体性と創造性を兼ね備えた学生を獲得するために、高大連携事業を推進するとともに、それを踏まえて入学者選抜方法の改善を図る。その一環として、スーパーグローバルハイスクールに指定された優れた高等学校等、12校程度と新たに協定を締結する。

東京学芸大

- 【目標】：● 第2期中期目標期間においては、受験生募集や入学試験業務を効率化するため、複数選抜単位間における入試問題の共通化を実施した。また、教育に関して高い関心を持つ学生を確保するため、学力試験から面接への入試方法の変更や高大接続プログラム特別入試を実施するとともに、学校訪問や大学説明会を通して、学校教員や教育支援者の魅力を伝える広報活動を展開した。
- 第3期中期目標期間においては、入学者選抜方法を改革し、教育者として必要な学力を有し、次世代育成教育を担う学校教員や教育支援者として活躍できる人材となりうる入学生をこれまで以上に確保するため、アドミッション・オフィスの機能を持つ組織を設け、アドミッション・ポリシーに基づいた入学者選抜を導入する。併せて、国際バカロレア資格を有する受験生を対象とした入試も含めて、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価する入学者選抜に改める。
- 【計画】：● 次世代育成教育を担う教員・教育支援者となるべき人材として、教育者として必要な学力、コミュニケーション力、協働力、教育に対する意欲・適性を的確に評価し、選抜するための方法及び選抜単位の検討を、28年度より開始する。併せて、アドミッション・ポリシーの見直し、アドミッション・オフィスの機能を持つ組織の設置、国際バカロレア入試の開始等に関する具体的な検討も開始し、高大接続改革実行プランに基づく大学入試改革に合わせて選抜方法を改革する。
- 次世代育成教育を担う教員・教育支援者となるべき学生を入学させるため、学校教員及び教育支援者の魅力を高等学校等に発信する広報活動を積極的に行う。併せて、本学を受験する生徒の多い関東地方の高等学校等に学校訪問を行い、本学に対する認知度を向上させるとともに、教員や教育支援者を志望する高校生の実情を的確に把握する。
 - 27年度から開始した高大接続連携プログラムの検証を行い、4年間の大学在籍中及び卒業後2年間の追跡調査を実施し、今後の教員養成教育の改善に資するため33年度までに各種データの集積・分析に基づく評価を行う。

東京農工大

- 【目標】：● アドミッション・ポリシーに基づいた入学者選抜制度の改善を行い、優秀かつ多様な人材を確保する。
- 【計画】：● 28年度に全学入学者選抜制度検討委員会（仮称）を設置し、各部局の特色を踏まえ、アドミッション・ポリシーを見直し、32年度から新制度による入学者選抜を実施する。
- 自立的に成長し、グローバルに活躍できる研究者・技術者を養成するため、30年度までに高等学校との連携事業（AP事業）を実施するとともに、31年度から、新たな入学者選抜制度に強く結び付いた連携事業を実施する。

東京芸術大

- 【目標】：● アドミッション・ポリシーに基づき、志願者一人一人の適性、能力を仔細に検証し、多角的・総合的に判断する入学者選抜方法を徹底するとともに、稀有な才能を有する者の積極的な受入れ等、グローバルスタンダードを踏まえた新たな入学者選抜方法を導入する。
- 【計画】：● 本学の伝統である、受験者一人一人の基礎能力・判断能力・応用能力を判定する多角的・総合的な審査を継続する。またグローバルスタンダードを踏まえた明確なアドミッション・ポリシーを30年度までに作成するとともに、ブランディング戦略の一環として、入試に係る広報・情報発信を積極的に行う。
- 音楽学部において、稀有な才能を有する者を対象として、入学後の特別カリキュラムを連動させた独自の飛び入学制度を28年度から実施する。また、毎年国内5か所以上の市町村において、高校生以下を対象とする個人レッスンを中心とした早期教育プログラムを継続的に実施する。
 - インターネットを活用した WEB出願システムを29年度までに導入する。また、音楽学部の早期教育受講者に係る基本情報ははじめ、卒業生までを含め一元的に管理する総合的なデータベースを構築する。
 - 国内のみならず広く海外も対象として、多様な個性・特色・能力を有する学生を確保するため、28年度以降、飛び入学制度の導入や国際バカロレア資格活用等をはじめとする新たな入試制度を段階的に導入する。

東京工業大

- 【目標】：● 確かな理工系基礎力を有し、国際的に活躍できる素養を持つ人材を受け入れることができるように、入学者選抜方法を改善する。
- 【計画】：● 確かな理工系基礎力と知識を活用する力を評価する入試を継続しながら、グローバル化に不可欠な英語力を評価し発展させるため英語外部試験を入学者選抜に組み込み、その対象学生を増加させる。
- また、多様な人材を確保するため、意欲・経験を多面的に評価する入学者選抜方法を拡充するとともに、海外から広く優秀な学生を受け入れることができるよう入学者の選抜方法を改善する。

東京海洋大

- 【目標】：● 海洋及び海洋に関連する分野に強い関心を抱き、高い志と資質を持った国内外の優秀な者を、評価方法を明確にしたアドミッション・ポリシーにもとづいて的確に選抜する。
- 【計画】：● 海洋とその利用及び地球環境問題に興味と関心を持ち、自らが問題を見つけ解決する意欲と行動力を持つ学生を求めため、過去5年程の入学者の出身高校などの動向を調査し、本学に入学を目指す高校生の推移を検証するとともに、入学後の学生の成績や活動実績、卒業後の進路等をデータベース化し、留年・中退率などの情報を可視化し、推薦、AO入試、編入学等の存続を含めて、入試方法の改善を積極的に行う。

お茶の水女子大

【目標】：● 学力の三要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）を重視した多面的な入学選抜の在り方について研究し、選抜方法を改善する。

【計画】：● 28年度から現行 AO（アドミッション・オフィス）入試を大きく改革し、学力を多面的・総合的に評価する新フンボルト入試を導入する。定員は従来の AO 入試の定員を倍増させる。かつ、その成果を十分に検証し、特別入試をはじめ入試全般の改革に応用する。

電気通信大

【目標】：● 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）の双方の内容を踏まえ、入学受入方針（アドミッション・ポリシー）を更に見直し、工学に必要な基礎学力の上に、多面的・総合的な評価を取り入れた新しい入学選抜により多様な人材を選抜し、広く国内外から学生を受け入れる。

【計画】：● 大学入学前後でのフォローアップを含めた高等学校との連携強化をミッションとする「高大連携推進室」をアドミッションセンター内に設置する。ここを中心に、入学選抜の評価の基準を明確にした入学受入方針（アドミッション・ポリシー）を、来る入試改革に備えて見直しを図り、学力そのものの評価、及び多様性、主体性、協働性などの評価を可能とする新しい入学選抜を導入する。

また、すでに学士課程の一部の類で実施している、面接試験時の自由研究発表を評価する推薦入試「UEC パスポートプログラム」について、その他の類においても評価方法を検討し、学士課程全体に拡大させる。

一橋大

【目標】：● 多面的・総合的な入学選抜を行う。

【計画】：● 学部入試における各科目の得点率と入学後の GPA、ゼミナールでの学業成績、就職状況等との相関関係を分析しながら、多様な評価基準を用いる推薦入試制度を全学部へ導入する。

横浜国立大

【目標】：● グローバル新時代に対応した高大接続を推進するため、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを見直し、国内外から優秀な学生を集める多面的かつ戦略的な入学選抜を実施する。

【計画】：● グローバル新時代に対応した社会的人材育成の観点から、キャリア形成を軸とした高大接続を可能にする入試改革を行うとともに、高大接続を推進するための組織を整備し、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを見直す。
● YNU グローバル教育コア(YNU-GEC)を先導役として、本学のグローバル展開に資するために、ウェブ出願、渡日前入試等海外の志願者がアプローチしやすい入試制度を拡充し、海外協働教育研究拠点を活用した海外の高校との高大接続、いわば、留大接続を推進する。
● 入試の募集単位の大くくり化により、入学後の総合的な学修や基礎科目の履修を通じて自らの学修目標と学修分野を定める late specialization 型の教育プログラムを実施する。

新潟大

【目標】：● 課題の発見と解決において重要となる「学力の三要素」（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）を含む人材育成目標に対応した入学受入方針の改善と入学選抜制度への転換を行う。

【計画】：● 各分野のミッションの再定義並びに主体的な学修への転換に合わせて人材育成目標を再設定し、入学受入方針を改善するとともに、多面的・総合的な選抜方法や大括り入試など新たな入学選抜制度を導入する。また、そのための全学的な支援体制を整備する。
● 高等学校と大学の教育課程の接続を円滑にし、「確かな学力」を身につけた学生を受け入れるため、「新テスト」導入を見据え、協議体等を設置して高等学校と意見交換を行うなど密接に連携して、入学選抜方法を改革する。

長岡技術科学大

【目標】：● 活力（Vitality）、独創力（Originality）、世のための奉仕（Services）を重んじる「VOS の精神」をモットーに、本学の教育理念に共感を覚え、アドミッション・ポリシーに則した優秀な学生を多面的に受け入れるため、大学入学希望者の意欲・能力・適性を多面的・総合的に評価する新たな本学独自の個別選抜及び入試広報手法を構築する。

【計画】：● 高等専門学校や海外協定大学など、連携の密な教育機関と入学前から積極的な情報交換を行い、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の活用や「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を踏まえた、多面的・総合的に評価する新たな個別選抜を構築し、実施する。
● アドミッション・ポリシーが浸透し、それに呼応する学生が本学を受験するような、多様なメディアの活用や高校及び高専の教員、志願者、保護者等への直接のアプローチなどの手法を駆使した、質の高い広報を展開する。

上越教育大

【目標】：● 「21 世紀を生き抜くための能力+α」を備えた教員を養成するため、新テスト「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」等の活用を踏まえたアドミッション・ポリシーの見直しを行い、それに基づき、多面的・総合的な評価を重視した個別選抜（大学が個別に行う入学選抜）を実施する。

【計画】：● 「21 世紀を生き抜くための能力+α」を備えた教員を養成するため、新テスト「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」等の導入を踏まえたアドミッション・ポリシーの見直しを 28 年度中に行う。

● 「21 世紀を生き抜くための能力+α」を備えた教員を養成するため、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」及び「主体性・多様性・協働性」を多面的・総合的に評価する個別選抜方法の検討を高大接続システム改革会議の検討状況を注視しつつ、30 年度までに行い、33 年度入学者に係る選抜から実施する。また、上記選抜方法の妥当性及び信頼性の検証を目的とし、入学者の追跡調査等を行う。

富山大

【目標】：● 26 年 12 月 22 日中央教育審議会答申及び「高大接続改革実行プラン」27 年 1 月 16 日文部科学大臣決定に基づき、入学選抜は、大学入学後の教育課程と入学選抜の評価方法との関係性や求める能力の評価方法が明確化されたアドミッション・ポリシーに基づき、知識偏重の入学選抜から脱却し、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定する入試改革を行う。

【計画】：● 高大接続改革実行プランに基づき、アドミッション・ポリシーの見直しを行うとともに、大学入学希望者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価できる大学入学選抜方法の内容を 30 年度までに決定し、33 年度入試から実施する。

金沢大

【目標】：● 学域学類制に応じた入試制度改革を行う。

【計画】：● KUGS が目指す人材像に応じた優れた資質・能力・意欲を備えた学生を確保するため、英語外部試験の活用の拡大や「文系一括、理系一括」入試の導入等、入学選抜方法を改善する。

福井大

【目標】：● 知識・能力・意欲・適性等を**多面的・総合的に評価・判定**する選抜方法により、多様な志願者や社会ニーズ等に適切に対応するとともに、多様な学生の受入れを進める。

【計画】：● **一体的な3ポリシーのもと、達成度テスト（仮称）、国際バカロレア資格等の活用**を含め、多様な志願者に対し知識・能力・意欲・適性等を**多面的・総合的に評価・判定**できる**選抜方法を30年度までに策定し、適宜導入**する。さらに、新たな高大連携のあり方とそこでの学習成果に基づく**多様な能力を多面的・総合的に評価する手法の研究開発**を行うとともに、それを通して**高大接続入試、特に個別選抜への提案**を行う。

● 志願者・入学者の状況やアドミッション・ポリシーとの整合性、社会ニーズ等を随時点検し、選抜方法や教育課程の継続的改善を行うとともに、必要に応じて入学定員の見直しを行う。さらに主体的・協働的に課題解決の取組みを進める高大連携の取組みを発展させるとともに、初年次教育を含めた高大接続や積極的な入試広報活動等によって、**県内出身者を含め、アドミッション・ポリシーに沿った多様な学生を確保**する。

山梨大

【目標】：● 大学教育に必要な知識を確認するとともに、能力・意欲・適性を**多面的・総合的に評価・判定**する入学者選抜方法を導入する。

【計画】：● 入学者選抜方法研究委員会等による検討結果を踏まえた**新たな推薦入試・AO入試を実施**する。また、「**大学入学希望者学力評価テスト（仮称）**」の導入に向けて一般入試における評価・判定方法のあり方を検討し、これらを踏まえて、**30年度までにアドミッション・ポリシーを改訂**する。

● 教育国際化推進機構の下に**アドミッション・オフィス（仮称）を新設**し、大学教育、教養教育、国際交流の各センターと連携して選抜方法の研究、選抜に関わる教職員のトレーニングプログラムの開発及び高大連携の促進に取り組む。

● **高等学校教育課程における学力の3要素（思考力・判断力・表現力）を育成するための学習・指導方法の改善及び評価方法の開発を支援**することにより、**本学への進学が見込まれる山梨県内外の高等学校との連携を深める**。

信州大

【目標】：● 入学者受入れ方針で求める人材を適正に選抜するための改革を進める。

【計画】：● **大学入学希望者学力評価テスト（仮称）の導入に伴い**、入学者受入れ方針を見直し、「**知識・技能**」「**思考力・判断力・表現力**」「**主体性・多様性・協働性**」を**多面的・総合的に評価**し入学者を選抜する体制を、**32年度までに整備**する。

岐阜大

【目標】：● ミッションの再定義及び岐阜大学の国際化ポリシーとビジョンに基づいてアドミッション・ポリシーを見直し、入学者選抜の方法を改善する。

【計画】：● **多面的・総合的な評価**など入学者選抜の方法を改善するため、**入学時関連情報と卒業・修了時関連情報を分析し、その結果に基づきアドミッション・ポリシーを29年度までに見直す**。

静岡大

【目標】：● アドミッション・ポリシーに基づき、**知識のみでなく様々な能力や意欲・適性を多面的・総合的に評価**する入試を実施する。

【計画】：● 学士課程入試については、**大学入学希望者学力評価テスト等の導入を踏まえ**、個別学力試験において、アドミッション・ポリシーに基づくより**多面的・総合的な評価基準を導入**する。また、新方式の入試導入に向け、**全学入試センターにアドミッション・オフィス機能を加える**とともに、データに基づく入試方法、評価方法の改善に当たる専門人材を配置することによって、**入試実施体制を強化**する。

● **秋季入学（留学生対象）、社会人入試等の社会的ニーズに基づく特色ある入試を引き続き実施**するとともに、**拡大を図る**。

浜松医科大

【目標】：● 入学者選抜をアドミッション・ポリシーに基づいた能力・意欲・適性を、**多面的・総合的に評価・判定**するシステムへ転換する。

【計画】：● 地域医療に意欲を持ち、自立性のある優秀な人材を確保するため、**28年度までにアドミッション・ポリシーについて必要な見直し**を行った上で、能力・意欲・適性を**多面的・総合的に評価・判定**する入学者選抜方法について検討するワーキング・グループを設置し、**32年度までに新たな個別選抜方法を導入**する。

名古屋大

【目標】：● **世界トップレベルの研究につながる人材養成を実現するため**、多様な能力評価等を含め、**適切な入学者選抜システムを構築**する。

【計画】：● **学士課程教育の3つの方針（学位授与、教育課程編成・実施、入学者受入の方針）に基づくシームレスな教学マネジメント・システムの構築（教育基盤連携機構（仮称）の設置）**とともに、**アドミッションセンターの設置、多面的・総合的な評価方法の開発・実施、英語外部試験の活用**等の入学者選抜改革により、**高大接続改革に取り組む**。

● 海外拠点等を活用し、海外の中等教育機関との接続を模索し、優秀な留学生の確保ができるよう、推薦制度枠の導入など選抜方法等の改善に取り組む。

愛知教育大

【目標】：● **学力の三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」）を踏まえ、記述式試験問題や小論文、面接、プレゼンテーション、実技試験、調査書等を活用して多面的・総合的な選抜**を行う。

● 広域拠点型教育大学として愛知県内を中心に中部地区全域から教職を目指す入学志願者を募るため、広報活動に取り組み、本学のアドミッション・ポリシーや本学での学び、教員の魅力を伝える。

さらに、外国人に向けた広報活動にも取り組む。

【計画】：● 第3期には、**アドミッション・オフィスを設置し、教学IR（HATOプロジェクトの教員養成開発連携センターIR部門）が集約してきた選抜方法ごとの入学後の成績や卒業後の進路データ等の提供を受けて**、将来教職に就く者又は学校を支援する人材として活躍する者の能力、意欲、適性を**多面的・総合的に評価する選抜方法を具体化して、その成果を分析検証し、次期へ反映**させる。

● **第1期・第2期より附属高等学校との間で行っている高大連携教育システムを第3期に検証し、そこで得られる研究成果を生かして高大接続を視野に入れた入学者選抜方法の改善を行う**。

● 本学のアドミッション・ポリシーに基づき、知識偏重ではなく、高等学校における諸活動の実績等を適正に評価できるよう、**6年一貫教員養成高度化コース（仮称）特別選抜やAO入試等の多様な選抜方法を策定**するとともに、**推薦入試枠については現行の10.6%から30%以上に拡大し、高い学修意欲を有する人を積極的に受け入れる**。

- 愛知県内を中心に中部地区の高校生が本学を訪れて模擬授業に参加したり、研究室を訪問したりする機会を増やすほか、出前授業や進学説明会等に積極的に参加し、また、オープンキャンパスにおいても本学の特色、教員の魅力を伝えることで学部入学志願者増に繋げる。特に、第3期前半は岐阜県・三重県を中心に、後半には静岡県・長野県・福井県まで範囲を拡げ、国公立の高等学校に向けた広報活動を精力的に行う。

名古屋工業大

- 【目標】：● 能力・適性等を評価する多様な入学者選抜方法を導入し、アドミッション・ポリシーに基づく人材を受け入れる。
- 【計画】：● 多様な入学者を受け入れるため、AO入試、推薦入試、一般入試からなる本学の入学者選抜において、アドミッション・ポリシーに応じて、能力・適性等を多面的・総合的に評価する選抜方法を実施する。特に、創造工学教育課程の選抜においては、面接や小論文を重視し、工学への関心の高さや意欲などを評価して受け入れる。
また、入学後の学生の成績等の動向と面接評価との関連の分析を行い、判定手法の改善に反映する。

豊橋技術科学大

- 【目標】：● 技術科学への探究心をもった学生を多面的・総合的に評価する入学者選抜を実施する。
- 【計画】：● 多文化共生・グローバルキャンパスを実現するため、学部、大学院のそれぞれの段階でグローバルに活躍できる人材を選抜できるよう、入学者選抜方法を30年度までに確立し、継続して実施する。

三重大

- 【目標】：● 大学全体の目標や再定義されたミッションに基づき、本学が求める人材像としてのアドミッション・ポリシーを再検討するとともに、求める人材を選抜するための入学者選抜方法を改善する。
- 【計画】：● 本学のアドミッション・ポリシーに基づく多面的で総合的な評価と判定のための入学者選抜方法の改善に取り組むため、アドミッションセンターを立ち上げる。また、入試フォローアップシステムを活用し、多面的に入学者選抜試験の評価や入学者の追跡調査を実施するなど継続的に入学者選抜方法を分析・検証する。
- 本学の教育・研究資源を高校教育に役立てるため、引き続き高大連携事業（東紀州講座、出前授業、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）・SGH（スーパーグローバルハイスクール）支援、サマーセミナー、大学授業の高校生への開放など）に重点的に取り組むとともに、成果を検証し、南北に長い県の中心に位置する本学と南部・北部地域との双方向の交流手段として遠隔テレビ会議システム等を活かしながら、三重県内の高校生に対し、本学の教育・研究内容について理解が得られるような内容や方法の改善と開発を進める。
- 本学の教育・研究・社会貢献の実態について、高校生や社会からの理解を深めるために、「大学案内」などの内容や活用方法を改善するとともに、ホームページを活用して、教養教育や専門教育の授業のダイジェストや入学前の補習的内容(リメディアル)を動画配信する。
また、オープンキャンパスや大学見学(保護者・生徒)などの入試広報活動に、キャリア・ピアサポーター(学内資格取得者)、大学院生等を活用し、大学生と高校生の交流する機会を提供することや、学生の意見や発想を取り入れた広報活動を拡充するなど、大学の強みや特色、学部や大学院の教育と研究について多角的に情報発信する。

滋賀大

- 【目標】：● 本学の教育理念と高大接続改革に対応する観点から、アドミッション・ポリシーを見直し、多様な能力を持つ人材を適切な方法で評価する入学者選抜制度を確立する。
- 【計画】：● アドミッション・ポリシーを30年度までに見直す。学部個別入学者選抜は、大学入学希望者学力評価テスト（仮称）の導入を念頭に置きつつ、知識・技能に加え、思考力・判断力・表現力等、多様な能力を適切な方法で評価する制度とし、学部教育組織の再編に合わせて可能なものから段階的に実施する。
- 全学のアドミッション・オフィス機能を強化し、あわせて広報活動を進める。また、これまで実施してきた教職探究フォーラムなどの高大連携事業を、アドミッション・ポリシーの見直しに対応する高大接続の観点から改善する。

滋賀医科大

- 【目標】：● 本学の教育理念に立脚し、医学及び看護学の修得に真摯に、また、熱意をもって取り組む人材を求め、医療人として社会や地域に貢献できる素質をもった学生を選抜する。
- 【計画】：● 社会や地域の医療・保健・福祉への貢献を意識する学生を獲得するため、医学・看護学についての小・中学校での出前授業や高校への訪問説明、体験授業等を活用し、児童・生徒等にこれらへの理解と関心を高めさせる。
- 様々な社会のニーズを考慮した本学が求める素質を持った学生を選抜するために、アドミッションオフィサーを新たに配置し、これまでに蓄積した受験生や学生のデータを多角的に分析し、よりよい志願者を獲得するための体制を構築する。また、アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜における面接の実施やその評価方法を分析し、学力の3要素を適切に評価する選抜方式への改革を進める。

京都市大

- 【目標】：● 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）の一層の明確化を図り、それに則った入学者選抜の改善を行うことなどにより、必要な基礎的学力を十分に備え、大学の学風と理念を理解して、意欲と主体性をもって勉学に励むことのできる入学者を国内外から広く求める。
- 【計画】：● 明確なアドミッション・ポリシーを踏まえ、本学への留学希望者を含む優秀な入学志願者の確保を目指し、各種大学・入試説明会、オープンキャンパス、大学案内冊子等を通じて、本学の基本理念及びアドミッション・ポリシーの浸透を図る効果的な入試広報活動を行う。
- 一般入試及び特色入試で入学した学生の入学後の修学状況や学業成績、大学院への進学状況等の追跡調査を実施するとともに、求める人物像に合った学生が入学しているか検証を行い、これを踏まえて本学における入試制度全体の改革のあり方等について検討し、適切な改善を行う。また、高等学校における幅広い学びと活動の実績を評価し、個々の学部におけるカリキュラムや教育コースへの適合力を判定する「京都大学特色入試」を確立する。

京都教育大

- 【目標】：● アドミッション・ポリシーに基づき、教職を強く志望し、適性の高い学生を入学させるため、高大連携事業を推進するとともに、多様な入学者選抜を実施する。
- 【計画】：● 教職を強く志望し、かつ適性の高い学生を入学させるため、入学から卒業までの教学データの分析を基に、入試方法の改善を進める。
- 京都府各地域の初等教育に貢献する教員を養成するために、地域指定推薦入試を引き続き実施する。
- 高校での教職に関連したカリキュラムの実施を支援し、教員養成と繋ぐために、高等学校や教育委員会と高大連携事業を実施するなど高大接続を推進する。

京都工芸繊維大

【目標】：● 多様な試験形態により、求める能力、適性を多面的かつ総合的に判断する入学者選抜を実施する。

【計画】：● 高大接続改革を踏まえ、志願者の能力、適性や活動歴などを多面的かつ総合的に評価する本学独自の入学者選抜である「ダビランチ（AO）入試」において、募集人員を10%以上増加させる。

● 国際化を図る観点から、英語スピーキングテストの導入など、志願者の実践的外国語運用能力を評価基準とする入試改革を実施する。

大阪大

【目標】：● 多様な能力や経歴を持つ、志の高い優秀な人材を国内外から選抜するため、入試方法の多様化と多面的・総合的入試のための体制整備に取り組む。

【計画】：● アドミッション・ポリシーに基づき、従来の入試選抜方法に加え、国際バカロレア、TOEFL等の外部試験・資格、能動的・主体的に取り組んだ活動経験、面接又は口頭試問の結果等、多様な観点を取り入れた独自の総合入試制度を29年度から導入し、入学定員の約10%（約300人）を受け入れることを目指す。また、国全体の入試制度の変更を見据えて、多面的・総合的入試を確実に実施するための学内体制を整備する。

● グローバルアドミッションズオフィスを中心として、新たな私費外国人留学生入試（海外で入試選抜試験を実施した上で、入学前に本学で日本語予備教育を行う等）等、多様な入試選抜方法によって、留学生を増加させ、33年度末までに全学生の15%程度の留学生を受け入れる。

● スーパーサイエンスハイスクール(SSH)、スーパーグローバルハイスクール(SGH)に採択された高校等と密接な連携をとり、グローバル人材の育成を推進する。また、生涯を通じた学修を促すため、公開講座や学術講演会など、社会人が学べる環境を充実させる。

大阪教育大

【目標】：● 第2期中期目標期間においては、アドミッション・ポリシーに相応しい入試方法により、総合的な基礎学力を備え、課程、学科、専攻の教育目標に対して適性がある学生を受け入れるため、入試方法の効果の検証をもとに、課程等ごとに入学者選抜方法等の改善策を検討・実施してきた。

第3期中期目標期間においては、教員養成及び教育・学習支援人材養成の広域的拠点大学を目指す本学のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーに適合する意欲・適性を備えた学生を確保できるように抜本的な入試改革を行う。

【計画】：● 29年度中に、アドミッション・ポリシーに適合する意欲・適性を備えた学生を確保するため、知識偏重の入学者選抜から、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定するものに転換していく。30年度以降は、入試改革の検証を行い、さらなる改善を行う。

兵庫教育大

【目標】：● アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に基づき、本学が求める学生を多面的・総合的に評価判定する入学者選抜を実施する。

【計画】：● 入試制度の改革にあわせて、次世代の教育を担う教員となるにふさわしい資質や能力などを多面的に評価するため、面接を重視する等の入学者選抜方法の改善を行う。

神戸大

【目標】：● 本学の教育目的を達成するため、アドミッション・ポリシーに基づき、入学志願者の学力に加え、それ以外の能力・意欲・適性を含んだ多面的・総合的な評価・判定を行う入学者選抜を実施する。

【計画】：● 多面的・総合的な評価を行う入学者選抜の実施に向け、27年度に設置した入試改革推進本部において集中して検討を進め、アドミッション・ポリシーを見直すとともに、30年度から順次新しい選抜方法に切り替えていく。

● 多様な能力・個性を持つ質の高い学生を確保するため、オープンキャンパスの開催、高校主催を含む進学説明会への積極的な参加など、戦略的な入試広報を展開し、現在の適正な志願倍率（前期3倍・後期10倍）を維持する。

奈良教育大

【目標】：● 本学学部で教育を受けるために必要な学力を有し、教職への強い意欲を持った者を受け入れる。

【計画】：● 入学者の入試成績、入学後の学業成績等の分析に基づき、教職への意欲関心、教職に必要な学力能力を多面的総合的に評価できる選抜方法に向けた改善を行う。

● 奈良県教育委員会との協議を継続的に行うとともに、高大接続の一環として地域の高校との連携関係に基づいた学部の選抜方法を検討改善し、地域の教育に貢献する人材を育成する。

奈良女子大

【目標】：① 学力判定に偏ってきた従来の入学者選抜を、学問研究に必要な感性、主体性、学力等を総合的に判定できるものに改めるために、入学者選抜方法の根本的な見直しを行う。

② 附属中等教育学校等との高大接続入試の枠組みを設け、理想的な中等教育を行う上で求められる大学入試のあり方について研究する。

【計画】：①ー1 学問研究に必要な感性、主体性、学力等を総合的に判定できる、あるべき入学者選抜方法を研究、開発するために、アドミッション・ポリシーの全体的な見直しを行い、29年度までにその改革案を作成する。

①ー2 学生の成長力を適切に判定できる入学者選抜方法の確立に資するために、本学のIR機関である学長調査戦略室を中心に、一人一人の学生の入学前、入学後、卒業後の成長過程のデータを基に把握する。

② 大学入試のあり方は、中等教育のあり方に大きな影響を及ぼす。入学試験対策に偏るが故の早すぎる文理選択や、各教科の暗記科目化等はその悪影響の一つである。そこで附属中等教育学校等と連携し、逆に中等教育に好影響を及ぼす大学入試とは如何にあるべきかを研究し、31年度実施の入試改革に資する。

和歌山大

【目標】：① 学修意欲の高い学生を入学させるために、アドミッション・ポリシーを更に明確なものとし、大学が求める学生像を社会に示す。

② アドミッション・ポリシーに基づき、知識偏重の試験にならないよう改善を図り、能力・意欲・適性や活動歴を多面的・総合的に評価・判定する入学者選抜に転換する。

【計画】：① 本学への進学に意欲や希望を持たせるようにするため、大学が養成する人材像、教育課程、アドミッション・ポリシーを分かりやすい形にして示す。

② 面接、論文、高等学校の推薦書、生徒が能動的・主体的に取り組んだ多様な活動、大学入学後の学修計画案を評価するなど、多様な評価による入学者選抜を実施する。入試制度改革後、入学者の追跡調査を行い選抜方法の妥当性・信頼性の検証を行う。

鳥取大

【目標】：●「知」のみならず「実践」的マインドを有する入学者を受け入れ、本学の学修と経験を通じて、社会の中核となり得る教養豊かな人材を育成するため、受験生の能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価できる新たな入学者選抜に取り組む。

【計画】：●受験生の能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価するため、アドミッション・ポリシーの改訂、選抜方法や評価方法の見直し・具体化を行い、新たなアドミッション・ポリシーに基づいた入学者選抜を実施する。

島根大

【目標】：① アドミッション・ポリシーに基づいた、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定する入学選抜に改善する。

② 主体的に学び自らを高めようとする学力・資質を有する多様な学生を確保する。

【計画】：① アドミッションセンターを設置し、アドミッション・ポリシーに基づき、高校教育で培われた入学志願者の能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定する島根大学型育成入試を開発し、実施する。

② 大学進学への意欲を高め、目的意識を明確にした主体的な学びに向かう学生を確保するために、高校での学びの成果を大学における学びにつなげる課題探究学習や地域課題学習型模擬授業（例「キャンパス・アカデミー」「授業大学」「地域貢献塾」）等の高大接続事業を展開する。

岡山大

【目標】：●グローバル社会において、本学で主体的に学びたいという強い意欲を持ち、アドミッション・ポリシーに適合した基礎学力と優秀な資質を持つ学生を、多面的・総合的な評価に基づき国内外から受入れる。また、優秀で多様な人材を継続的に確保するため、入学者選抜方法の改善を行う。

【計画】：●暗記中心の知識偏重型入試から、受験生（留学生含）の能力・意欲・適性も多面的・総合的に評価する入学者選抜方法に転換する。総合的な評価に基づく入試や課題解決型の入試、高大接続型入試制度等を検討し、30年度から順次導入する。TOEFL等の外部試験を入学者選抜に活用する制度を順次導入・拡大させる。

●国内外から優秀な学生を受入れるため、国際バカロレア教育（IB）を受けた学生の受入を全学体制で拡充する。留学希望者向けの留学説会を海外で実施し、海外で入学者選抜試験を実施して（第3期中期目標期間末までに5箇所以上）、留学生の多様化を図る。入学者選抜に関わる調査・研究及び選抜方法ごとの追跡調査の結果に基づく教学IRシステムにより、入学者選抜方法の改善を行う。秋季入学の課題及び社会的ニーズ等を調査・分析し、秋季入学（IB入試対象）の受入体制を整備する。

広島大

【目標】：●国内外から多様な背景を持った優秀な人材を受け入れるため、新たな入学者選抜を実施する。

【計画】：●高大接続を踏まえながら、本学のアドミッション・ポリシーに基づいて能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定する個別選抜の内容を、29年度までに決定し、2年間の周知期間を経て、33年度入試から実施する。

●国際的に通用性がある英語4技能（読む、聞く、書く、話す）を測ることのできる資格・検定試験を、29年度入試までに全学部のAO入試において活用し、31年度入試までに全学部の一般入試でも活用することによって、グローバル化に対応できる人材を受け入れる。

山口大

【目標】：●ダイバーシティ・キャンパスの実現を目指し、多様な価値観や経験、能力を持つ学生を受け入れ、また、高等学校教育で育まれた総合的な学力を発展・向上させるため、大学教育との接続に配慮した多様な評価・入試方法等の改善に取り組む。

【計画】：●入学後の教育カリキュラムとの関係性や、求める能力の評価方法が明確化されたアドミッション・ポリシー（入学者受入方針）を29年度までに策定する。

●大学入学希望者を多面的・総合的に評価し、高等学校教育での「学び」が大学入学選抜に反映されるような高大接続を考慮した入試方法を31年度までに設計する。入学者追跡調査を基に本学のAO入試（アドミッションズ・オフィス入試）で実施している多面的評価方法を発展させ、学力の三要素である「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を評価できる新しい評価基準及び手法を設計し入試に導入する。特に、「主体性・多様性・協働性」を評価するため、調査書等を点数化して試験に取り入れる。

●「ダイバーシティ・キャンパス」を形成する学生を受け入れるためのプラットフォームを構築し、学力の三要素を評価するための基礎作りを行う。特に、①志願者の高等学校教育での「学び」（学習の評定値、資格・検定試験等の成績など）を数値化し、それらを評価基準の一部として利活用する入試システムの策定、②志願者の地域（外国を含む）を限定しない出願のインターネット化（グローバル化）、③アドミッションオフィス（専門職員）を置き、入試システムの整備・強化を31年度までに実施する。

徳島大

【目標】：●新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた改革を行うため、本学の教育方針を踏まえ入学者に求める能力及びその評価基準・方法を明確にした入学者受入方針（AP）に基づき、公正な入学者選抜を実施する。

【計画】：●大学入学選抜に係る「個別選抜改革や新たなルール（法令改正、大学入学選抜実施要項の見直し等）」を見据えて、入学者受入方針（AP）に基づき、志願者の「確かな学力として求められる力（「知識・技能」、「主体性・多様性・協働性」、「思考力・判断力・表現力」）を的確に把握するための多面的・総合的な選抜方法の確立及び全学的な導入」に取り組む。

また、「現行制度下における個別選抜」についても、選抜方法の改革（試験科目や出題方法等の見直し）に取り組み、順次反映していく。

さらに、入学者の活動状況の継続的点検等をアドミッション組織が行い、選抜方法の妥当性・信頼性（入学者受入方針（AP）との整合性含む）の検証・改善に取り組む。（入試改善への活用率：100%）

●四国地区5国立大学が連携して志願者の多様な活動歴等の情報をオンラインで収集するシステムを29年度までに開発・充実させ、志願者の資質や能力を多面的・総合的に評価する入学者選抜に活用する。

鳴門教育大

【目標】：●本学では入学者選抜において、学生の資質能力・意欲・適正を多面的・総合的に評価するために、センター試験の結果だけでなく面接、論文、個別検査、調査などの結果を活用してきた。また、24年度から四国地区5国立大学連携「連合アドミッションセンター」による連合AO事業として、AO入試への展開を見据えた志願者情報システムの開発に構成大学として参画している。

第3期の29年度までにこの新たなシステム運用への移行を完了し、その内容を踏まえたアドミッション・ポリシーの検証等を行い、30年度に新たな入学者選抜方法を定める。

【計画】：●四国地区5国立大学が連携して志願者の多様な活動歴等の情報をオンラインで収集するシステムを29年度までに開発・充実させ、志願者の資質や能力を多面的・総合的に評価する入学者選抜に活用する。さらに、高大接続改革をより一層推し進めるために、この内容を踏まえ、アドミッション・ポリシーの検証・改善を行い、30年度に新たな入学者選抜方法を定める。

- 29 年度以降、本学の特色や新しい入学者選抜方法等について、オープンキャンパス、高等学校等の訪問による説明会や他大学等と合同説明会、及びウェブページ等を通じて積極的に広報し、周知を徹底する。

香川大

- 【目標】：● 多面的・総合的な評価方法による入学者選抜を導入し、アドミッション・ポリシーに沿った人材を地域中心に全国から受入れる。
- 【計画】：● 32 年度から実施予定の新入試制度に向け、大学入学志願者に求める「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」等新たな学力の 3 要素を明確にした入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を策定する。また、地域社会に求められる人材を育成するため、香川県内の高校生や保護者、高校教諭等への広報活動や高大連携事業を拡大し、香川県内の国立大学進学者のうち香川大学入学者の割合を 30%以上にする。
- 四国地区 5 国立大学が連携して志願者の多様な活動歴等の情報をオンラインで収集するシステムを 29 年度までに開発・充実させ、志願者の資質や能力を多面的・総合的に評価する入学者選抜に活用する。

愛媛大

- 【目標】：● 「愛媛大学の全学アドミッション・ポリシー」（27 年度策定）に従い、高等学校等で得られた基礎的な知的能力の評価だけではなく、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価する入学者選抜の仕組みを構築する。
- 【計画】：● 四国地区 5 国立大学が連携して志願者の多様な活動歴等の情報をオンラインで収集するシステムを 29 年度までに開発・充実させ、志願者の資質や能力を多面的・総合的に評価する入学者選抜に活用する。
- 附属高校等のスーパーグローバルハイスクール（SGH）・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）採択校をモデル校として、「課題研究」の高度化を図り、その入試への活用を通じて実効性のある高大接続事業を推進する。

高知大

- 【目標】：● 入学者受入方針に基づき、知識偏重の入学者選抜から、受験者の学ぼうとする意欲、主体的に世の中に働きかけようとする態度、協働する力、理解する力、これらを支える高等学校までの学習成果を多面的・総合的に評価する入学者選抜方法に転換し、大学での学修に円滑に接続させる。
- 【計画】：● アドミッションセンターの機能を充実させることにより、学部改組が完了する 29 年度入試までに、各学部・学科等のアドミッション・ポリシーを入試形態ごとに定め、求める人材像を新たに構築するとともに、その方針に適合した入学者選抜を実施する。また、高等学校等での多様な学習成果や課外活動歴等を適切に評価するため、30 年度入試から段階的に新たな入学者選抜方法を導入する。
- 高知県内の高等学校と協働で開発・実施してきた課題探究学習をはじめとするクリエイティブ系教育プログラムを活用し、高等学校の教員への授業改革支援を行うなど高大接続事業をより深化させ、高等学校教育の質の確保・向上に積極的に取り組むことで、地域の課題発見・解決等に積極的に関わることができる高校生を選抜する入試方法を開発・実施する。
 - 四国地区国立 5 大学が連携して志願者の多様な活動歴等をオンラインで収集するシステムを 29 年度までに開発・充実させ、志願者の資質や能力を多面的・総合的に評価する入学者選抜に活用する。

福岡教育大

- 【目標】：● 第 2 期においては九州の教員養成拠点大学の役割を果たすため、新たな入試として「地域創生推薦入試」の導入を決定した。これを受けて、第 3 期においては、学校現場でリーダーシップを発揮できる教員となるための意欲や熱意、資質・能力を有する者を的確に選抜し、教師になるという志の実現に資するよう、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を踏まえた抜本的な入試改革を行う。
- 【計画】：● 28 年度に改革した教育学部及び教育学研究科の入学者選抜の達成状況について、学生の学習状況や履修状況、大学教育の満足度の状況、教員志望への意欲や熱意の状況、教員採用試験の志望状況及び合格実績並びに教員採用後の追跡調査などを視点とした検証を毎年度行い、選抜方法の改善を行う。

九州大

- 【目標】：● 国立大学としては最も早くから AO 入試を導入し、「21 世紀プログラム」を実施するなど、新たな取組を積極的に進めてきた実績をもとに、アドミッションセンターの充実を図り、新たな入試制度を開発、実施する。
- 【計画】：● 新学部の設置に併せ、新たな入試制度の開発を行うとともに、アドミッションセンター機能の充実・強化、新たな入試手法の研究開発、入試改革に対応した求める人材像を含むアドミッション・ポリシーの見直しを開始する。

九州工業大

- 【目標】：● 本学の強み、特色、社会的役割を踏まえ、大学教育を通じてどのような力を身に付けさせるかを明確にし、入学者選抜において高等学校教育等で身に付けた能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価する。
- 【計画】：● 入学試験制度の改革に対応してアドミッション・ポリシー（入学者受入方針）を改定し、入学者に求める能力・意欲・適性とその評価等を公表する。
- アドミッション・オフィスの企画に基づき、グローバル・コンピテンシー教育に相応しい人材を選別する AO 型入試を実施する。
 - 第 2 期に構築した学務・入試・就職等のデータベースを活用した IR（インスティテュショナル・リサーチ）分析を入学者選抜方法等に活かす。

佐賀大

- 【目標】：● アドミッション・ポリシーに基づき、「確かな学力」を多面的・総合的に評価・判定する方法を導入し、全学的な入試改革を実現する。
- 【計画】：● 従来の試験方法では測れない能力や適性等を評価する「佐賀大学版 CBT」の開発や志願者の活動・実績等をアドミッション・ポリシーに応じて評価する「特色加点」制度の構築など、多面的・総合的に評価する新しい評価・判定方法を全学部を導入する。
- 高等学校教育と大学教育との円滑な接続を図るため、高校 3 年間を通じて提供する 3 つ以上の「継続・育成型高大連携カリキュラム」を実施する。

長崎大

- 【目標】：● アドミッション・ポリシー（入学者の受入方針）に基づく、入学希望者の多様性及び学力の三要素を踏まえた多面的・総合的に評価・判定する入学者選抜方法を開発・導入する。
- 【計画】：● カリキュラム・ポリシーに基づいた教育課程の実施に際して入学者に求める学力及び入学者選抜の評価基準・方法を明確にしたアドミッション・ポリシー（入学者の受入方針）を整備し、29 年度までに社会に周知する。
- 入学希望者の学力を多面的・総合的に評価・判定するため、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性等を測る知識偏重ではない多元的評価の方法を開発し、32 年度までに導入する。

熊本大

【目標】：① 主体性のある多様な人材を確保するため、アドミッション・ポリシーに基づき、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定する入学者選抜方法に転換する。

② 自立性が高く学習意欲旺盛な知力・胆力ある人材獲得に繋がる高大連携推進事業を展開する。

【計画】：①ー1 多様な人材を確保する入学者選抜方法を導入するため、28年度に入試戦略センター（仮称）を設置し、31年度までに多元的な評価方法の組み合わせによる入学者選抜方法、分析方法、評価方法を開発する。

①ー2 自立性が高く学習意欲旺盛な知力・胆力ある学生を確保するために、32年度に予定されている大学入学希望者学力テスト（仮称）の実施に合わせて、アドミッション・ポリシーを見直し、多元的な評価方法の組み合わせによる入学者選抜方法（一般入試）を検討し、公表・実施する。加えて、スーパーグローバル大学採択校として、スーパーグローバルハイスクール指定校などのグローバル人材の輩出に積極的な高校の卒業生受け入れを拡大する入学者選抜方法（特別選抜入試）とそれに付随する多元的な評価方法を30年度までに導入する。

② 本学が必要とする自立性が高く学習意欲旺盛な知力・胆力ある人材を獲得するため、高大連携推進事業を県内の高等学校を中心に幅広く展開し、入試広報を充実させ、第3期中期目標期間に熊本県内の高校からの入学率を30～35%まで引き上げる。

大分大

【目標】：● 学習意欲が高く主体的・能動的に行動する優秀な学生を確保するとともに、多様な人材を受け入れるために、アドミッション・ポリシーに基づいて多面的・総合的な評価、選抜方法を構築する。また、主体性、協働性をもつ高校生を育成するため、高大連携推進事業を更に強固に推進する。

【計画】：● 多様な能力をもった学生の受入れ、選抜方法の妥当性・信頼性の検証及び改善、高大接続をより一層推進するため、30年度までに、入学企画支援センターを発展的に改組して、アドミッション・オフィスを設置する。

● アドミッション・ポリシーに基づき、能力・意欲・適正を多面的に評価する入学者選抜方法を確立して、30年度に公表し、この方法による入学者選抜を32年度から実施する。

● 国の『高大接続改革実行プラン』に示された高等学校教育と大学教育の連携強化を実現するため、大学レベルの教育に高校生が触れる機会を大分県内の全ての高等学校に提供する。

宮崎大

【目標】：● アドミッション・ポリシーに基づき、多面的・総合的に評価する入学者選抜方法を整備する。

【計画】：● 志願者・入学者の追跡調査及びIR（Institutional Research）分析の結果を活用しつつ、外部試験の活用や「確かな学力」を総合的に評価可能な選抜方法を30年度までに検討し、第3期目標期間中に改善する。

鹿児島大

【目標】：● アドミッション・ポリシーに基づき能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価する入学者選抜を実施する。

● グローバル人材育成と多様な人材の確保に対応した入学者選抜を実施する。

【計画】：● 学力評価に加え、多面的・総合的な評価による入学者選抜方法を31年度に整備し、33年度入学者選抜から実施する。

● 奄美群島・種子島・屋久島等の離島地域の活性化に資するため、当該地域において鹿児島大学説明会等を開催し、当該地域の志願者数（27年度97人）を33年度入学者選抜までに1.3倍に拡充する。

● 28年度入学者選抜から導入する国際バカロレア入試を拡充するとともに、29年度入学者選抜に外部英語試験を導入し、評価に基づき拡充することとし、33年度までに国際バカロレア入学者をおおむね10名とするとともに、全学部的一般入試・推薦入試Ⅱ（全募集人員のおおむね95%）に外部英語試験を導入するなど、グローバル人材育成と多様な人材確保に対応した入学者選抜に取り組む。

鹿屋体育大

【目標】：● 大学入学者選抜改革に対応し、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を点検し、大学希望者の能力・意欲・適性等に関し、多面的・総合的な評価を行えるようにする。

【計画】：● ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに対応できるように、入学者選抜に係る追跡調査を基にアドミッション・ポリシーの再点検・見直しを行い、具体的な評価方法を明確に示す。

● 入学者選抜において、理論と実践とを連結する能力を有し、かつ人間的な魅力に満ちた指導者になり得る人材を養成するため、多面的・総合的な評価を行える選抜方法を確立する。

琉球大

【目標】：● 大学及び学士課程・大学院課程・専門職学位課程の理念・目的に沿った入学者選抜方法を確立する。

【計画】：● 学士課程・大学院課程・専門職学位課程において、入学者選抜方法を抜本的に見直し、アドミッション・ポリシーに基づき、能力・意欲・適性を多元的・総合的に評価・判定する入学者選抜方法を確立する。

<“多様な入学者”の受入れ>

○ 中教審『答申』等の反映

中教審は26年12月、これからの時代の変化に対応するために、高校教育、大学教育、及び大学入学者選抜の改革を一体的に行うことを提言した『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について』を答申した（以下、『高大接続・入試改革答申』）。

文科省は当答申を受け 27 年 1 月、高大接続改革を着実に実行する観点から、取り組むべき重点施策等を明示した実行計画として『高大接続改革実行プラン』を策定し、27 年 2 月に「高大接続システム改革会議」を設置した。当改革会議は高大接続システム改革の実現のための具体的方策などを 27 年 9 月に『中間まとめ』として取りまとめ、現在、『最終報告』に向けて検討、議論を進めている。

大学入学者選抜を巡るこうした改革提言の動きの中、国立大の第 3 期中期目標期間における“入学者選抜の転換”が文科省から「通知」された(27 年 6 月:前掲の「通知」内容参照)。

前掲した 82 大学の入学者選抜の転換をみると、文科省の「通知」内容に加えて、同省の『高大接続改革実行プラン』や中教審の『高大接続・入試改革答申』等も反映されている。

○ 改革のカギを握る“多面的・総合的”な評価・選抜：8 割超の大学提示

今回示されている「高大接続・入学者選抜の転換」で“キーワード”ともいえる文言や新たな取組が、各大学の「目標」「計画」にどの程度盛り込まれているかをみる。(図 1 参照)

まず、大学入学者の受入れに関しては、多様な人材育成の観点などから、これまでのような画一的な一斉試験による知識偏重の評価から脱し、“入り口”段階で求められる“力”(アドミッション・ポリシー)を“多面的・総合的”に評価・選抜する新たな入学者選抜が求められている。

そのため、“8 割を超える大学”が、今回の入学者選抜改革のカギを握る“多面的・総合的”をキーワードに、入学者選抜の新たな評価・選抜方法への転換を提示している。

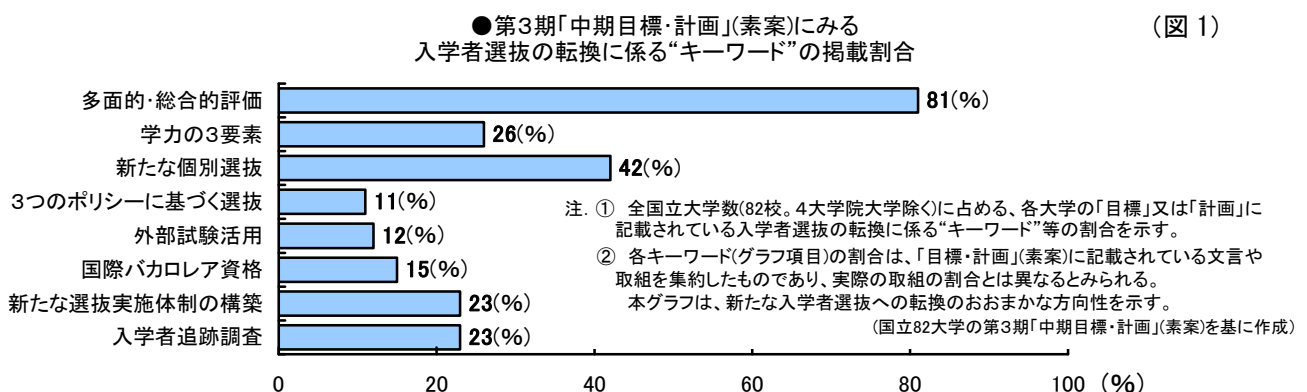
○ 「学力の 3 要素」を踏まえた評価・選抜：3 割弱が提示

小・中・高校を通して育成される「学力の 3 要素」(知識・技能／思考力・判断力・表現力／主体的な学習態度：学校教育法、学習指導要領)について、中教審の『高大接続・入試改革答申』は、高校段階ではこれからの時代に社会で生きていくために必要な「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」が求められるとして、「主体的な学習態度」を「主体性・多様性・協働性」に置き換えている。

こうした「学力の 3 要素」(「確かな学力」や「新しい学力」観など含む)を掲げ、新たな入学者選抜への転換を提示している大学は“3 割弱”である。

○ 「新テスト」対応等、新たな「個別選抜」の具体的策定：4 割強

中教審の『高大接続・入試改革答申』は「高等学校基礎学力テスト(仮称)」(以下、「基礎学力テスト」)及び「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」(以下、「学力評価テスト」)



といった「新テスト」の創設や個別選抜の改革、多様な学習活動・学習成果の評価などを提言した。「高大接続システム改革会議」はこうした提言を踏まえ、さらに「新テスト」の在り方や実施方法、個別選抜の改革促進方策などを検討、議論している。

「基礎学力テスト」は 31 年度から導入、「学力評価テスト」は 32 年度から導入とされているが、現段階では出題内容や実施方法等も含めて不透明な状況にある。

こうした状況の中、「新テスト」への対応も含めた新たな入学者選抜への転換に取り組んでいる大学は少なくないとみられるが、特に“新入試名”を冠した個別選抜の導入やこれまでにない具体的な選抜方法を策定し、明記している大学は“**4 割強**”である。個別選抜の具体的な改革事例として、次のような取組が注目される。

●「国際総合入試」(北海道大)／●「学部共通試験、志望分野の適性試験、地域性・地域貢献への意欲等を考慮する入試」(岩手大)／●「グローバル入試」(東北大)／●「グローバル入学者選抜システム、人文社会系・自然科学系などの大括り入試」(筑波大)／●「志願者の能力を多面的に判断する推薦入試」(東京大)／●「四大学連合(東京医科歯科大・東京外国語大・東京工業大・一橋大)を活用した大学個別試験」(東京医科歯科大)／●「飛び入学制度、国際バカロレア資格活用」(東京芸術大)／●「新フンボルト入試」(お茶の水女子大)／●「キャリア形成を軸とした高大接続を可能とする入試改革、募集単位の大括り化」(横浜国立大)／●「文系一括、理系一括入試」(金沢大)／●「6 年一貫教員養成高度化コース(仮称)特別選抜」(愛知教育大)／●「京都大学特色入試」(京都大)／●「実践的外国語運用能力を評価基準とする入試改革」(京都工芸繊維大)／●多様な観点を取り入れた独自の総合入試制度：「世界適塾入試」(大阪大)／●「島根大学型育成入試」(島根大)／●「総合的評価に基づく入試、課題解決型入試、高大接続型入試」(岡山大)／●「調査書等の点数化、高校教育の「学び」の数値化を評価基準の一部に利活用する入試システム」(山口大)／●「四国地区 5 国立大学(徳島大・鳴門教育大・香川大・愛媛大・高知大)の連携による志願者の活動歴等のオンラインでの収集システムの開発・充実と入学者選抜への活用」(四国地区 5 国立大)／●「佐賀大学版 C B T」、「特色加点」制度(佐賀大)など。

○ 一体的な 3 つのポリシーに基づく選抜：1 割強

中教審の『高大接続・入試改革答申』や高大接続改革会議の『中間まとめ』などは、大学教育の質の向上や学生の学修成果の向上を図るために、「学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)／「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)／「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の“3 つのポリシー”の一体的な策定を法令上位置付けるよう求めており、入学者選抜はこれら 3 つの方針に基づいて行うべきであるという。

アドミッション・ポリシーはほぼ全ての国立大(学部)で策定されているものの、3 つのポリシーの一体的な策定と、それに基づく入学者選抜の実施を「目標・計画」に明記している大学は“**1 割強**”に留まる。

○ 「外部試験」新規活用：1 割強／「国際バカロレア」資格の新規活用：1.5 割

グローバル人材の育成や英語 4 技能の評価・判定などの観点から、英語(語学関連)を中心に「外部試験」(資格・検定試験)や「国際バカロレア」資格を入学者選抜に活用するこ

とを「目標・計画」に掲げている大学が目につく。「外部試験」の新規活用は“1割強”、「国際バカロレア」資格の新規活用は“1.5割”程度である。

ただ、英語の「外部試験」活用については、既に実施していたり(国立大 25 年度入学者選抜<一般・推薦・AO入試>での活用は約 2 割)、今回の「目標・計画」に記載せずに 28 年度から新規活用したりする大学(学部・学科)もあり、英語の「外部試験」活用は現段階で計画も含めると大学ベースで 3 割程度になるとみられる。

○ 新たな選抜実施体制の構築／入学者の追跡調査と選抜の改善：ともに 2 割強

多面的・総合的な評価による入学者選抜を全学的に進めるためには、その実施体制の充実・強化と評価方法や実施方法の研究・開発などが必要である。

今回の「目標・計画」では、アドミッション・オフィスやアドミッションオフィサーなどの新設置、及び入学者の評価・選抜方法と入学後の学修・進路状況等の追跡調査を通じた選抜方法の改善などの取組が目につく。

新たな選抜実施体制の構築や、入学者の追跡調査などを掲げている大学は、ともに“2 割強”である。

<国大協の『アクションプラン』と第 3 期「中期目標・計画」>

○ 優れた多様な入学者の確保

国立大学協会(国大協)は 27 年 9 月、国立大の将来ビジョンと主体的な改革を打ち出すために、『国立大学の将来ビジョンに関するアクションプラン』(以下、『アクションプラン』)を策定した(27 年 6 月『中間まとめ』)。

同プランでは、具体的な改革取組の内容として、ポイント 1：優れた資質・能力を有する多様な入学者の確保と受入環境の整備／ポイント 2：大学間等の機能的な連携・共同による教育研究水準の向上、という 2 つのポイントを掲げている。

特にポイント 1 では入試改革に関して、第 3 期中期目標期間に次のような取組を開始、実行するとしている。

○ 多面的・総合的な評価／推薦・AO入試、国際バカロレア入試の拡大

国立大は、多面的・総合的な評価を含み、個々の大学のカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに沿って学修を進めることができる者を選抜できるように入試改革を推進するとともに、推薦入試やAO入試、国際バカロレア入試等の導入を拡大するという。

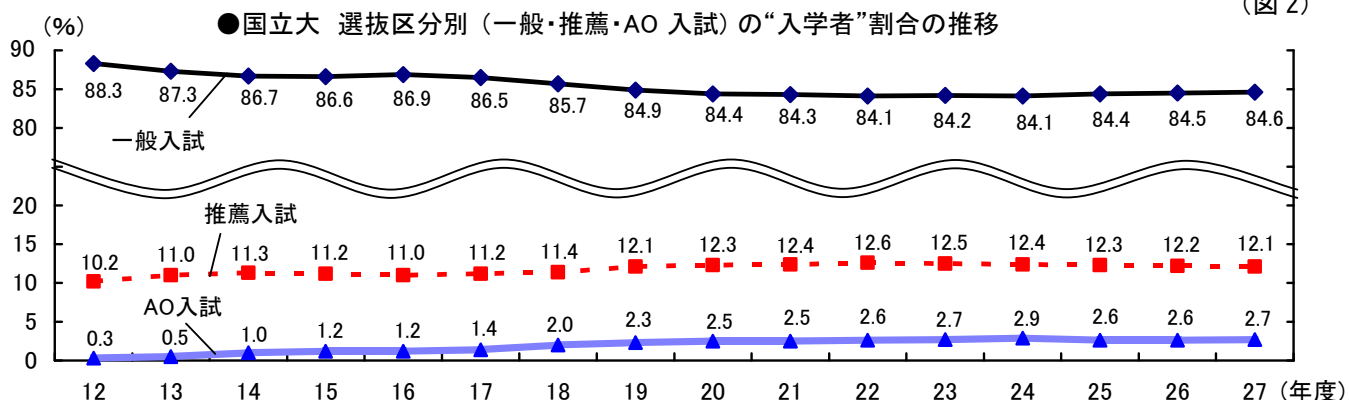
また、国に対しては、各大学における丁寧な入試の実施に必要な組織整備、人材育成等についての支援を行うよう求めている。

○ 27 年度「推薦入試＋AO入試」入学者 14.8% ⇒ 「国際バカロレア」入試含め 30%に拡大

推薦入試の募集人員については現在、文科省の『大学入学者選抜実施要項』で「募集単位ごとの入学定員の“5割”を超えない範囲」と定められている。国大協では“推薦入試”と“AO入試”の募集人員を合わせて“5割”を超えない範囲”としている。

国立大の 27 年度入学者(約 9 万 9,600 人)のうち、推薦入試による入学者は約 1 万 2,100 人(全入学者に占める割合 12.1%)／AO入試の入学者は約 2,700 人(同 2.7%)で、両者合わせた入学者は約 1 万 4,800 人(同 14.8%)だった。

(図 2)



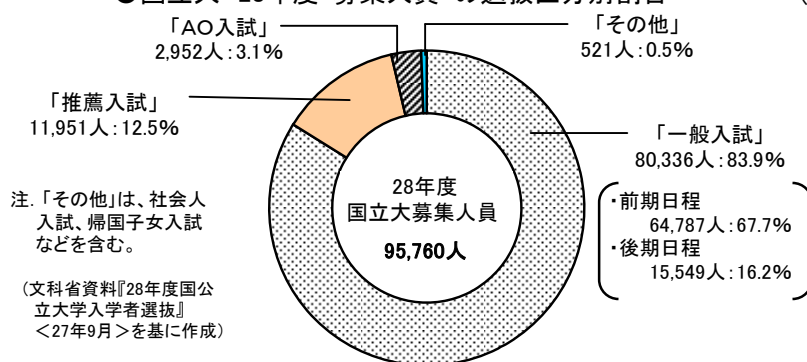
注. ① 各年度とも、専門高校・総合学科卒業生、帰国子女、社会人等の「その他」の選抜区分は除く。

② 国立大のAO入試は、12年度に東北大・筑波大・九州大の3大学8学部で導入された。

(文科省資料『国公立大学入学者選抜実施状況』を基に作成)

●国立大 28年度“募集人員”の選抜区分別割合

(図 3)



因みに、28年度の両者合わせた募集人員は約1万4,900人(募集人員全体の15.6%)で、前年度より約210人(1.4%)増加しており、全体に占める割合も0.3ポイント上昇している。(図2・3参照)

こうした国立大の推薦・AO入試の実態を踏まえ、国大協の『アクションプラン』は推薦・AO入試、及び国際バカロレア入試等の多面的・総合的な評価による入学者受入れの割合を現行の約2倍に当たる“30%”に拡大することを掲げている。

これは、国大協の「推薦+AO入試“募集人員”=50%以内」の“ガイドライン”と、現実の「推薦+AO入試“入学者”=15%」とのギャップから、「推薦+AO+バカロレア入試等“入学者”」の割合を、実現可能性を踏まえた目標として30%にしたことが伺える。

ただ、28年度から新規導入される東京大の推薦入試や京都大の推薦・AO入試の募集人員はそれぞれの大学の募集人員全体の3%程度に留まり、東京大では「記述解答式の学力試験による入学者選抜をさらに改善しつつ継続する」ことを「目標・計画」に明記している。

いずれにしろ、多面的・総合的な評価による多様な入学者の受入れには、評価尺度の多元化などとともに、選抜の公平性や妥当性などが求められる。入学者選抜の新たな取組には財政支援等も含めた体制整備が必要であり、文科省は国立大の入学者選抜改革への重点支援として、28年度概算要求に20億円を新規計上している。

(2015. 12. 大塚)